

令和6年度 人権教育研究推進事業 <人権教育総合推進地域事業>

都道府県・
指定都市名

神奈川県

地域名

三浦市 南下浦地区

人権課題

同和問題・外国人・ハンセン病患者等・子供・性的指向・性自認・障害者

目標・人権教育
のねらい

- ・人権教育の授業実践を通して、違いを受け入れたり様々な生き方があることを知る。
- ・児童・生徒だけではなく、教職員自身も人権課題を学びながら、授業を通して一緒に学んでいく。
- ・全ての児童・生徒が安心して学校生活を送ることができるようにする。

各組織の動き・役割等

神奈川県教育委員会

人権教育総合推進会議

三浦市教育委員会

人権課題について研修を行い、人権教育担当教員の知識を深めた。人権教育担当としての役割を確認した。各校の実践を共有し、実践を市内へ広げた。

三浦市社会福祉協議会

三浦市文化スポーツ課

体験学習での協力

三浦市立南下浦小：外部講師を招聘して命の授業を行った

三浦市立剣崎小：障害のある卒業生と交流を深めた

三浦市立上宮田小：人権コーナーを設置し、違いを理解することのできる環境を整えた

三浦市立南下浦中：授業を通して「性的指向・性自認」「外国人」への理解を図った

三浦市立旭小：道徳の授業を通して人権教育の授業実践を行った

校種間連携の
概要

- ・人権教育総合推進会議において、各校の実践を共有し、各校の実践を他校へ広げることができた。
- ・研究授業の検討において、小・中学校の学び方について情報交換することができた。

令和 6 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育総合推進地域事業>

地域・関係機関との連携の概要

- ・福祉体験等は、三浦市社会福祉協議会やスポーツ推進委員の協力を得ながら体験的に学ぶことができた。
- ・地域の方の体験をもとにした講話により、興味関心を高めながら意欲的に学ぶことができた。

事業成果

- ・知識的側面：資料の活用、講師招聘により人権課題を正しく理解することができた。

ハンセン病患者等の人権課題について、「家族と離れて生活しなければならない苦痛を知った。」「隔離政策が終わっても、差別が続いている恐ろしさを感じた。」など、各自が深く考える姿があり、ハンセン病患者等の人権への理解が深まった。

- ・価値・態度的側面：当事者等の講話を通して自分自身の考えを再構築し、相手の気持ちを考えた行動につなげることができた。

「自分には、よいところがあると思いますか。」

→小学校、中学校ともに80%以上

- ・技能的側面：話し合いや体験活動において課題意識を持ちながら行うことで、自分の思いに気付いたり相手の気持ちを想像したりする力を身に付けることができた。また、自らの考えを整理するために、ワークシートに自分の考えを書くことで他者と考えを共有し、相手を受容する行動がみられるようになってきた。

「問題の解決に向けて、自分で考え、進んで取り組むことができましたか。」

小学校 6%向上、中学校 9%向上